

# 東海大学理学部

## 数学科同窓会会報

### 創刊号

#### 【巻頭言】

数学科同窓会 会長：山田正和

早春の候、同窓会員の皆様方には益々、ご清栄の事とお慶び申し上げます。今春、卒業生の皆様には、今後のご活躍を期待いたします。

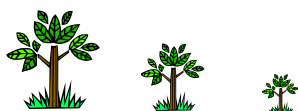
会長を務めております山田正和（69 年度卒）です。初代会長の田中暉彦（65 年度卒）さんの後を受け 2004 年 11 月の総会にて選出されました。東海大学の発展のために小さい力ですが、お役に立てればと思ってお引き受けをした次第です。

同窓会が設立され 18 年の経過となります。本日ここに数学科同窓会の会報が創刊できますことは、多くの関係者の努力の賜物と思ひ敬意を表します。会報の発行は同窓会の設立当初の企画であり、実現できたことは当時を思い感無量です。設立準備段階での川尻先生の言葉を思い出します。「同窓会を作るのは簡単だが継続するのは大変だぞ」は心に残っています。会報の発行回数が積み重なっていくことを期待し、皆様と共に見守って行きたいと思ひます。

同窓会の運営については目に見える活動状況をという事で、2004 年度から学科から推薦を受けた卒業生に対し、「数学科同窓会賞」を贈らせて頂いております。また、毎年 11 月 3 日に開催されている東海大学同窓会ホームカミングディに合わせて、定例の代議員会を開催することを決め、意義のある数学科同窓会に成長させて行きたいと活動を開始いたしました。この 2～3 年同窓会の活動も少しずつですが行こうようになりました。会員の皆様の活躍情報などありましたら、お寄せ頂ければ幸いです。

宣伝文句ではございますが、大学を選ぶなら「東海大学」、学部を選ぶなら「理学部」、勉強するなら「数学科」を合言葉に支援していこうではありませんか。同窓会を存続させる為にも、ぜひ、ご協力をよろしくお願ひいたします。

役員一丸となって当同窓会の発展の為、頑張っておりますので、応援くださいますようお願いいたします。会員の皆様におかれましては同窓会運営のため、ご意見などお寄せいただければ幸いに思ひます。



#### 【数学科同窓会会報発刊に寄せて】

東海大学名誉教授：川尻信夫  
数学科同窓会会報が発刊されること、本当に嬉しいことで、心から喜んでおります。



学生時代はまさに人生の華の時期で、誰もが忘れられない多くの思い出を持っておられるでしょう。特に同期の友人達とはぐくんだ友情は一生の宝と言ってよいでしょう。しかし、長い眼で見れば、学生生活の価値は、単に同期生との関連だけで決まるものではありません。この、いわば「横糸」とともに、先輩・後輩との交流という「縦糸」もまた、特に卒業後は重要な要素だと思います。同窓会はこの縦糸を支える大切な組織です。

東海大数学科も既に 40 年を越える歴史を持っており、数学科同窓会もあります。しかし、正直なところ、その活動は活発とは言えませんでした。それが、このたび会報発刊の運びとなったのはまさに縦糸強化の一大事業で、本当に歓迎すべきことです。編集・刊行の実務にあたられる皆さんには多くのご苦勞をおかけすることになりましようが、どうかそのご苦勞を乗り越えて、会報発行をいつまでも続けられるようお願いいたします。

ところで、私は退職してもう 12 年になります。近頃の卒業生は私を知らないのは当然ですが、本筋から離れるのは覚悟のうえで、この機会をお借りして、古い方々に簡単に近況報告をさせていただきます。

私は 82 歳になりました。理学部発足当時の教員で生き残っている中で、年齢では私が最年長ではないでしょうか。一昨年までは病気らしい病気もせず元気そのものでしたが、昨年中に何度も病院のご厄介になり、現在もいささか体調不良ですが日常生活は普通です。補聴器は不要、本や新聞も眼鏡なしに読めます。一昨年まで続けていた郷里の市の幾つかの委員も今はすべてやめました。現役時代に学生諸君に言い続けてきた「野次馬根性を持って」を、今は私自身に言い聞かせながら、相変わらず多読・乱読の毎日です。今は大分忘れてしまったドイツ語やフランス語も読んでいます。このまま一生を終えることになるでしょう、東海大学数学科の隆盛を祈りながら。

#### 【数学科の現況】

数学科主任教授：太田雅己

数学科を含む本学理学部の創立 40 周年記念行事が行われたのがもう 2 年半ほど前になりました。その際は理学部草創期の苦勞談を諸先輩から伺ったり、昔の卒業アルバムを眺めたり、また何年ぶりかで元ゼミ生に再会したり等々色々感慨深いものがありました。

かく言う私も東海大に赴任したのが 1983 年ですか

ら、以来四半世紀が経過したことになります。同年4月に初めて湘南校舎に来たとき、数学科の場所を聞こうと思って4号館横のテントの案内所に近づいた所、新入生に間違われるという荣誉(?)に浴したのも遙か昔になってしまいました。

今思うと、当時の学生諸君も近頃比べると随分個性の強い人たちが揃っていました。最初のゼミ生の一人だったT君はボスの存在だったようで、「来年先生のゼミに俺の子分が来ますよ」と言いおいて卒業して行きました。次の学期新ゼミ生に聞いてみると本当に彼の子分が私のゼミに数人いました(曰く「Tさん、言うことを聞かないと殴るんです」)。

古き良き時代と言うべきかどうかはともかくとしても、学生諸君の気質の変化がその後少なくないのは明らかです。ちいさな同期生会が開かれたこともありましたが、卒業してそれっきりになるケースの方が遙かに多く、卒業生、在学生、相互の縦のつながりが希薄になるのは残念なことです。

40周年記念行事がひとつのきっかけだったと記憶していますが、数学科同窓会の活動が活性化しているのは喜ばしい限りです。ご存知のように、現在本学に限らず、世の大学全体が変動しています。40有余年の歴史をもつ数学科にとって縦のつながりはますます貴重なものになっていくと思われまふ。数学科同窓会の発展を願ってやまない所以です。

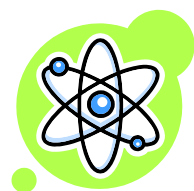
数学科助教授：山本義郎

私は東海大学理学部数学科に着任して3年になります。この3年間の中には、40周年記念式典・数学科同窓会があり、様々な世代の数学科OB・OGの方と知り合うことができましたが、その多くは教員をされている方だったように思います。附属校においても、非常に多くの数学科卒業の教員の方が活躍されていますし、推薦入試の際には「数学科卒の先生の指導を受け数学が好きになりました」という志望理由をよく聞きます。このように、数学科卒の教員が全国各地にかなりの人数がいると思われまふが、交流の機会が少なく、情報交換できないのはもったいないことだなと感じております。

またこの4月から就職担当として学生を送り出す立場となり、連日企業の採用担当の方とお会いしておりますが、ここでも数学科卒の採用担当者とお会いする機会があるとともに、採用担当の方から数学科出身で実績を積まれている方の話などの話をいただくと、とてもうれしい気持ちになります。現在大学では、キャリア教育の必要性が高まり、数学科出身の学生がどのようなキャリアを積んでいくのか、またそのためにどのようなことを在学中に準備した

らよいかについての講演をしていただく機会を設けております。そのような講習会において、多種多様なキャリアをもつ同窓生の方々のお話をいただきたいと思ひますので、講習会の他、キャリア教育に何らかの形で

お手伝いいただける場合には、就職担当の山本までメール(shusyoku@sm.u-tokai.ac.jp)または電話でご連絡お願いします。また同窓会の幹事としては、数学科同窓生の交流の機会を作っていきたいと考えております。そのため企画やアイデアなどありましたら、是非お知らせください。



#### 【活躍する卒業生】

東北大学：塩谷隆

私は東海大学理学部数学科卒、同大学院修士課程を1988年に修了しました。その後、九州大学を経て、現在は東北大学大学院理学研究科の教授として数学の研究・教育に携わっています。専門は幾何学です。

私の研究テーマである「多様体の崩壊とアレクサンドロフ空間」について、少しご説明したいと思います。多様体とは、曲面を一般化したもので、幾何学ではもっとも中心的な研究対象です。「多様体の崩壊」では、多様体の集まった「社会」を研究します。そのために、多様体が潰れてしまった、もはや多様体ではない「アレクサンドロフ空間」という、一種の特異な空間を考えます。分かりやすく例えていうと、人間の集まった社会を研究したいとします。人間には色々な人がいて、ある意味、コンピュータのような人もいれば、動物的な人もいます。非常にコンピュータ的な人間や動物的な人間、つまり極端な人を知ることが、ある場面で重要となることがあります。そこで、コンピュータや動物を調べ、それを極端な人間を知るための手がかりにします。ここで、多様体が人間にあたり、アレクサンドロフ空間がコンピュータや動物にあたります。幾何学ではしばしば極端な多様体を調べるのが重要となり、このような方法がとても有効です。

最近、G. Perelmanがポアンカレ予想と幾何化予想の証明の論文を発表したことが、数学の世界で大きなニュースになっています。実は、私と筑波大学の山口孝男さんとの共同研究が、Perelmanの証明で使われて脚光を浴びました。このためと思ひますが、昨年は光栄にも日本数学会から幾何学賞をいただきました。今まで順調に研究を続けてきましたが、それを支えてきたのは継続的な研究への情熱でした。この情熱に最初に火がついたのは、東海大学で修士過程在籍中のときでした。とにかく昼も夜も考えていたらよい研究成果が得られ、そのときとても強い満足感を覚

えたのがきっかけでした。東海大学の研究に対する自由な雰囲気と、よい課題を与えて下さった当時の指導教員の田中實先生にとても感謝しています。

新潟県立栃尾高校：加茂由明

——東海大学理学部数学科の卒業生の皆さんへ——

私は昭和五十九年三月に東海大学大学院理学研究科数学専攻（当時）の修士課程を修了した加茂と申します。

現在は、新潟の県立高等学校に勤務しており、教頭職として教育の現場で奮闘している毎日である。われわれはある問題に直面して簡単に解決できそうもないとき、安易に「これは不可能だ」といってしまうことが多い。しかし、不可能ということは誰がどのようにしてもできないという強い意味の言葉のほずで、未来永劫にわたってあらゆる手を尽くしても原理上どうしてもできない場合をいうのである。とくに、数学においては、いわゆる不可能の証明はそれが難しいだけに極めて革新的な証明法の創造を伴うことがあり、時として数学の飛躍的發展に貢献することが少なくない。数学を英語で mathematics というがこれはギリシャ語の  $\mu\alpha\theta\eta\mu\alpha\tau\alpha$ （マテーマタ）を語源にもち、本来は「学ばれるべきこと」の複数形で、いわば諸学問というような意味がある。この意味からも、是非とも生涯に渡って数学的な内容に係るものに触れていってもらいたいものと平素から考えながら授業を工夫・改善し、生徒に接している。われわれ人間は生きるすべとして無意識のうちに数学的思考を行っていて、それをいかに磨くことができるかが課題なのであることを認識する必要がある。若さの特権は未来に向かって夢や憧れを持ち、既成概念に捉われない新鮮な発想を持つことができ、無限の可能性を追求できることである。適者生存の原理というものがあるが、環境の変化に機敏に適応し、日々努力を続けることが求められるであろう。常に知的好奇心を持って経験の裾野を広げ、自分自身を進化・成長させることが大切ではなからうか。

卒業（commencement）には始まり・開始という意味がある。それは、いままでに学んだことを実社会で生かし、社会のために尽くすことの始まりを表す機会なのである。大学での学問の研鑽を終え、新たな場面への出発である。大学で学んだことを礎にして、これからの人生を豊かなものにしていってほしい。そのためには、常に自己を高める努力を忘れないことが大切である。

しかし、現実社会はそう甘くない。時には自信をなくし、どうすればよいのかさえ分からなくなってしまうこともあるかも知れない。複雑化した高度情報化社会でいったい何が真実なのかも分からなくなる。知識だけではどうにもならない。このようなことがすでに現実化しつつあり、十

年後を予測することは不可能に近い。このことを思うと悲観的になるが、これからの社会を生き抜く知恵を人間は持っていつことを忘れないでほしい。ただ、惰性的に日々を暮らしていたのではその知恵を会得することはできない。人との直接的なコミュニケーションを大切にして、良好な人間関係を築くことで、様々なことを経験し学ぶことができる。「人よく菜根を咬みえれば、則ち百事なすべし」（菜根譚より）

これからの社会を支える皆さんが、相互理解、相互協力の努力を通じて課題の解決にあたることが期待されている。長い忍耐のいる作業であるが、東海大学で培った力によって少しでもよい社会、明るい世界が作り出せるよう、それぞれの分野で努力してもらいたいと思います。皆さんの新しい出発を祝福して私の饞の言葉といたします。

#### 【卒業される学生諸君へ】

ご卒業おめでとうございます。今後のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

皆さんは卒業生として母校の発展や数学科の発展を願っていることと思います。数学科同窓会を営みあるものにするためには、皆様のご協力をお願いするとともに、数学科同窓会役員一丸となって努力する覚悟でございます。今後ともご支援の程よろしく願いいたします。

——お願い——

名簿につきましては、同窓会の案内や会報の発送などに利用いたしますので正確に把握したいと思います。住所等、内容に変化が有りましたらご連絡をお願い致します。また、友人の方で住所等を正確にご存じの場合にもご連絡していただければ幸いです。ご協力方々お願いいたします。なお、名簿につきましては適正に管理し同窓会運営目的以外利用いたしません。



#### 【同窓会の歩み】

数学科同窓会の設立は1989年11月25日に遡ります。69年度卒の方々の努力と先生方の協力のもと設立総会にこぎつけました。特にお世話になった川尻信夫先生、氏家勝巳先生、根本精司先生には感謝を申し上げたいと思います。毎年卒業式当日には数学科同窓会の紹介を行い入会の案内を行って来ました。2004年11月20日に行われた理学部創立40周年記念祝賀会の際には、多くの卒業生が集い学科を越えた交流を行いました。その後に数学科同窓会の総会が開催され、同窓会の会則の改定と2004年度卒業生から数学科同窓会賞を授与することが決まりました。



受賞者には同窓会の運営に寄与していただけることを期待しています。

また、長年奉職された先生が退職される時に退官の会が、有志あるいはゼミ生を中心に行われ、懐かしい顔にも出会うことができる機会がありました。ゼミ会やクラス会などの企画がある場合には、同窓会運営目的として名簿の提供も可能ですので数学科事務室までお問い合わせください。

数学科同窓会の会員数は2006年4月現在:3459名です。

【写真】2004年11月20日 同窓会総会（山田会長）



【写真】2004年11月20日 同窓会総会



#### 【数学科同窓会役員】

会長	山田 正和	(69年度卒)
副会長	松尾 久美子	(70年度卒)
	中村 昭宏	(76年度卒)
事務局長	原田 三行	(70年度卒)
幹事	千葉 彰悟	(69年度卒)
	沢野 重春	(70年度卒)
	山本 義郎	(91年度卒)
代議員	各年代2名	
会計	泉水 博	(00年度卒)
監査	手塚 政夫	(70年度卒)

#### 【事務局便り】

待望の数学科同窓会の会報が創刊されることになりました。同窓会の運営状況や東海大学のトピックなど同窓生にとって有意義な情報発信できればと思っています。興味のある企画などありましたらお寄せください。同窓生と在校生の交流事業などの企画も実現させたいと思います。

2006年には大学同窓会のホームカミングデーと同期を取り11月3日に数学科同窓会の代議員会を開催しました。多くの代議員の出席を頂き、また先生方にも出席を頂き、今後の数学科同窓会の運営について話し合いました。

決定事項は11月3日に定例の代議員会を開催することと2007年11月3日に数学科同窓会の総会を行うことが決まりました。詳細が決まり次第に会員の皆様に連絡をいたしますのでご期待ください。

数学科同窓会に関するお問い合わせは、次の連絡先までお寄せください。

#### 連絡先

〒259-1292

神奈川県平塚市北金目1117

東海大学理学部数学科同窓会事務局

事務局長：原田 三行（70年度卒）

e-mail：zharada@tokai.ac.jp

同窓会の運営経費は会員皆様の会費によって維持されております。一口2000円（何口でも可）を次の郵便口座まで振り込んでいただきますよう皆様のご協力をお願いいたします。なお、納入者については会報に掲載しご報告とさせていただきます。

口座番号：10200-25747091

口座名：東海大学数学科同窓会



#### 【発行】

発行日 2007年3月25日

発行人 山田 正和

発行所 東海大学理学部数学科同窓会

〒259-1292

神奈川県平塚市北金目1117